



安積の歴史シリーズI



第9回 中世 戦国争乱と安積地方

柳田 和久 (やなぎだ かずひさ)

郡山市文化財保護審議会
委員



あしな 蘆名氏の安積進出

蘆川公方・稲村公方の滅亡後は、南奥で勢力を誇ったのは、会津の蘆名氏と白河の白川氏、伊達郡梁川の伊達氏であった。

蘆名氏が次第に安積郡に進出してきた。文明2年(1470)には安子島(熱海町安子ヶ島)に出陣し、⁽¹⁾同16年(1484)には、岩瀬郡を攻めて須賀川の二階堂氏と戦った。⁽¹⁾

文亀元年(1501)に、安子島が蘆名氏の手落ちた。⁽¹⁾大永3年(1523)には、湖南の横沢村と中地村が村境をめぐる争論を起し、蘆名氏の老臣10名が争論を裁決している。⁽¹⁾この時点で湖南地域はすでに蘆名氏の支配下に入っており、蘆名氏は湖南地方から安積郡に進出してきたのである。

蘆名氏が安積郡に勢力をのばしてくると、安積伊東一族のなかには蘆名氏へ属する者もあらわれ、蘆名氏のもとに編入されはじめた。

天文の乱の勃発

天文11年(1542)、突如伊達晴宗が兵を挙げ、父蘆名宗を西山城(伊達郡桑折町)に幽閉する事件が起きた。天文の乱(伊達氏洞の乱)である。三男

伊達実元を越後の上杉定実に入嗣(養子に入る)させようとした種宗と、これに反対した嫡男晴宗の内訌(内紛)であったが、南奥の諸大名も種宗派と晴宗派にわかれて争う大乱に発展した。⁽²⁾安積郡もこの戦乱に巻き込まれた。

安積地方の争乱

天文12年(1543)4月、天文の乱に乗じて種宗方の田村隆顕が安積郡に攻め入り、晴宗方の蘆名盛氏と戦いとなった。10月には田村勢は、蘆名勢を安積郡西部の中山(熱海町中山)に退かせた。田村氏が侵攻した郷は27郷にも及び、下飯津(下伊豆島)・前田沢・小荒田(小原田)・郡山・荒井・名倉の6郷を奪い取り、蘆名勢の侍41人、雑兵800人を討ち取る激しい戦となった。⁽³⁾

その後、大槻・片平・福原等の安積伊東一族は、蘆名・岩城氏の支援を受け、晴宗方として勢いを盛り返した。そのため天文15年(1546)5月に種宗方の田村隆顕は、郡山又五郎に名倉の地を与えて牽制し、⁽³⁾同年6月には三春の田村隆顕・二本松の畠山義氏・塩松の石橋尚義の軍が安積に攻め入った。福原城以下、安積郡内の10ヶ城が種宗方の手に落ち、本宮宗頼は本宮城を捨て岩城へ逃れ

た。⁽³⁾

天文16年6月には、蘆名盛氏・岩城重隆が安積地方に進出し田村氏を抑えた。⁽³⁾

このころから晴宗方が優勢となり、天文17年9月に種宗と晴宗は和解し、晴宗は伊達家の当主となって米沢に移り、種宗は円森城（宮城県丸森町）に隠退し、天文の乱は終わった。⁽⁴⁾

しかし、安積郡では以後も蘆名・田村両氏の激しい攻防が繰り返される。

和解の条件

天文19年（1550）6月に、蘆名盛氏が猪苗代湖東岸の中地（湖南町中野）に出馬し、田村隆顕と戦った。この争いは、翌年7月に畠山尚国と白川晴綱の仲介によって和解した。和解の条件は、郡山・小原田・下伊豆島・前田沢を蘆名領とし、名倉・荒井を二階堂領とする。「安積之名跡」すなわち安積伊東氏惣家の家督を田村氏に渡し、その「名代」（相続人）に田村隆顕の次男を、蘆名盛氏が立てるというもので、名代を片平に住ませた。これにより安積伊東氏の家督の決定権を蘆名氏が掌握したのである。⁽⁵⁾

安積伊東氏の当主祐重は、天文の乱のさなかの天文12年（1543）4月、田村氏が安積郡一円を制

圧した時に小手郷羽田（伊達郡川俣町）に逃れたとみられる。⁽⁶⁾

片平は、江戸時代から安積伊東氏惣家の居所とされてきた。しかし、それは蘆名氏がすえた名代が片平城に住んだことにより生まれた伝承である。⁽⁶⁾

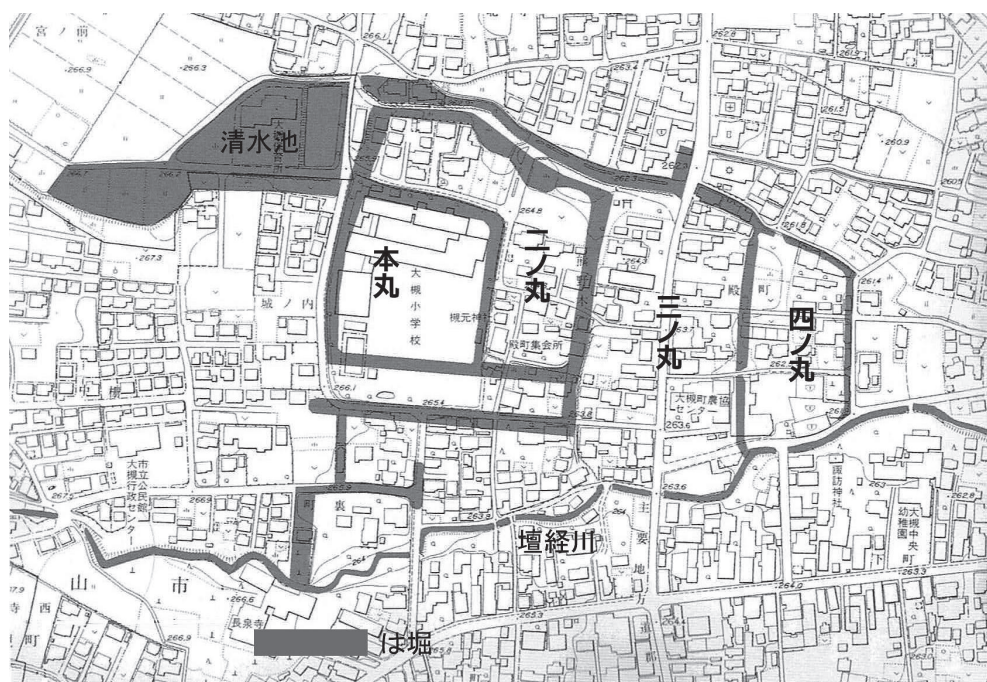
今泉城が田村氏の重要拠点となる

永禄2年（1559）2月、大槻城主伊東行綱の家臣相楽勘解由・大河原弥平太が、田村方に内通した。そのため、蘆名盛氏は軍を送り田村勢を大敗させ、勘解由・弥平太を大槻城に討死させ、日和田を攻め落した。田村氏は、安積郡からはほぼ全面的に後退させられた。⁽⁷⁾

田村勢は、ほこ先を替え岩瀬郡に攻め入り、今泉城を落城させ、今泉城には田村月斎を入れた。以後、天正9年（1581）に今泉城を二階堂氏に返還するまで、今泉城は田村氏が仙道（中通り）を攻略する最も重要な拠点となった。⁽⁸⁾

永禄5年（1562）今泉城代の田村月斎は大槻城を攻め、城主伊東高行は戦死した。⁽⁹⁾

天正2年（1574）正月、田村清顕は安積郡の大槻・成田・川田の城館や村落を放火して帰還した。⁽¹⁰⁾ 同年5月中旬にも福原をめぐって田村氏と



第1図 大槻城

蘆名氏が激しく戦い、蘆名の宿老松本氏興・富田新太郎・平田一斎等の会津勢800人が討死した。⁽¹⁰⁾

天正4年(1576)には、蘆名勢が郡山と福原を攻めた。これに反撃した田村清顕は塩松(安達郡岩代町)城主大内備前等とともに片平城を攻め落とした。片平城主伊東大和守祐時は会津に逃れた。田村清顕は大内備前の次男親綱を片平城に入れ片平を名乗らせた。⁽¹⁰⁾

同年10月に蘆名盛氏は久保田に出撃した。田村勢はこれを迎撃して大敗させ、翌5年にも郡山・福原で両軍が戦い、蘆名勢が敗退した。⁽¹⁰⁾

佐竹義重の北進

常陸太田(茨城県太田市)の佐竹義重は、小田原(神奈川県小田原市)の北条氏と戦いながら、次第に南奥へ進出してきた。天文10年(1541)10月には白河領に進入し、東館城(矢祭町東館)を、⁽¹¹⁾永禄3年(1560)10月には寺山城(棚倉町寺山)を攻略し、⁽¹¹⁾仙道(中通り)進出の足場を築いた。

天正2年(1574)には白河城(搦城)を攻略し、天正7年に佐竹義重の二男義広(喝食丸)を白川義親に入嗣させ、白川氏を従属下に編入した。⁽¹²⁾

天正12年に蘆名盛隆が死去すると、亀若丸が継いたが3歳で急死した。佐竹義重は白川に入った義広を、盛隆の娘と結婚させ蘆名の家督を継がせた。⁽¹³⁾佐竹義重は、蘆名・白川氏と姻戚関係で結び、蘆名・白川・岩城・石川・二階堂の諸氏を従えて仙道に進入してきたのである。



第2図 田村氏三代(義顕・隆顕・清顕)の墓
(三春町福聚寺)

田村氏が今泉城を失う

佐竹・蘆名・白川・二階堂・石川氏等の連合軍に対し、苦境に立たされた田村清顕は、天正7年(1579)に愛姫を伊達政宗に嫁がせた。⁽¹⁴⁾清顕は伊達氏と結ぶことによって、佐竹・蘆名・白川等の連合軍と対抗したのである。

天正8年(1580)2月、蘆名盛隆・佐竹義重・白川義親が出陣し、田村清顕と合戦となった。戦場は安積郡から岩瀬郡にかけての阿武隈川流域一円におよんだ。⁽¹⁵⁾御代田合戦である。

翌9年3月に伊達輝宗と岩城晴朝・相馬義胤が調停に乗り出し、4月18日頃に和睦した。⁽¹⁶⁾

和睦の条件は、蘆名・二階堂氏が攻め取った御代田は、本来田村郡であることから田村氏へ返す。田村氏は、永禄2年(1559)から占拠してきた今泉城と、枝の城々12、13ヶ所を二階堂氏に返還するというものである。

12、13ヶ所とは、田村のうち谷田川・栃本・糠塚・御代田、安積郡のうち守屋・富岡・鍋山・八幡・川田・成田・多田野・大槻等である。⁽¹⁷⁾

この和睦によって、田村氏は仙道攻略の重要拠点である今泉城を失ったのである。

註

- (1) 『郡山市史』 8
- (2) 吉川弘文館『国史大辞典』 9
- (3) 註 1
- (4) 2014年度版『郡山の歴史』
- (5) 小林清治「戦国期の田村氏と三春」三春町歴史民俗資料館平成10年度春季特別展『三春城と城下町』
- (6) 『北塩原村史』 通史編
- (7) 『郡山市史』 1
- (8) 註 6
- (9) 註 1
- (10) 註 1
- (11) 『白河市史』 1
- (12) 註 7
- (13) 註 6
- (14) 註 7
- (15) 註 6
- (16) 註 4
- (17) 註 7